

2026 年 3 月期 第 2 四半期決算に関する質疑応答集

【2025 年 11 月 28 日】

当社の 2026 年 3 月期 第 2 四半期決算に関して、株主・投資家の皆様からいただいたお問い合わせをまとめましたので、以下のとおりお知らせいたします。

なお、本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正をしております。

また、本質疑応答は 2025 年 11 月 28 日時点の内容となります。

Q 1. 旧システムへの切り戻しについて、旧システムを改修・拡張し、恒久的に利用し続ける方針となったのでしょうか。それとも、新システムの再構築は継続しており、いずれ切り替えとなるのでしょうか。

A 1. 旧システムを恒久的に利用する計画ではなく、再構築中の新システムが完成次第、段階的に移行する予定です。

Q 2. 再構築中の新システムのリリースはいつ頃なのでしょうか。

A 2. 再来期（2028 年 3 月期）頃を目途に全面切り替えが完了するよう、慎重に進めております。

Q 3. 新システムへ刷新をする目的は何でしょうか。

A 3. 将来的な事業拡大を見据えて業務効率性・拡張性・安全性を確保するためです。

Q 4. 旧システムへの切り戻しは急に決まったのでしょうか。もしくは、旧システムへの切り戻しを予定していたのであれば、なぜ第 1 四半期の決算説明資料等で説明がなかったのでしょうか。

A 4. 旧システムへの切り戻しも可能性の 1 つとして当初より想定をしておりましたが、第 1 四半期の決算開示時点においては、不具合のあった新システムに携わる旧外部ベンダーとの保守契約などが継続していたため、記載を差し控えておりました。

Q 5. 旧システムに切り戻すために新規受付を停止した期間はどれくらいでしょうか。また、既に新規受付は再開しているのでしょうか。

A 5. 停止期間は 2 日間であり、既に新規受付は再開しております。

Q 6. 旧システムへ切り戻しを行った理由は何でしょうか。

A 6. 新旧システムの並行稼働に伴う費用負担を削減し、新システム再構築に人的リソースを集中させるためです。当初は、新システム単独での安定稼働が困難と判断し、保全のため旧システムとの並行稼働を実施していました。そして、旧システムへのデータ移行が完了し、並行稼働の必要性がなくなったことから、旧システムへ切り戻しを行いました。

Q 7. 旧システムへの切り戻しによる業績や業務への影響はありますか。

A 7. 業績への影響：業績予想への大きな影響はありません。並行稼働の終了については業績予想へ織り込み済みとなります。旧システム単独稼働になることで保守費用等が削減され、第3四半期以降のシステム対応費用が、上期と比べて減少します。
業務への影響：旧システムに不具合があつての新システム入れ替えではないため、大きな影響はありません。

Q 8. 外部ベンダーへの損害賠償請求額と回収時期を具体的に教えてください。

A 8. 損害賠償請求額及び回収時期等の具体的な内容につきましては、相手先企業が関わる事項であるため、現時点では回答を差し控えさせていただきます。
今後、開示できる事項が発生しましたら速やかに開示いたします。

Q 9. 第2四半期のクレジット取扱高の減少はなぜでしょうか。また第3四半期以降も継続するのでしょうか。

A 9. 減少の主な要因は「旧システムへの切り戻しによる新規受付停止」「債権回収強化に伴う営業リソース低下」「粗利益確保のための利上げ」です。第4四半期には、これらの影響が解消され、例年通りの成長トレンドへの回復を見込んでおりますが、第3四半期は例年よりも前年比で低い成長率になると予想しております。

Q 10. 延滞債権残高率が第1四半期よりも第2四半期が増加している理由はなぜでしょうか。また期末にかけて本当に減少するのでしょうか。

A 10. 増加理由としては、初期延滞債権（3ヵ月以下）及び貸倒引当金の戻入に影響する債権（保険対象外債権）の回収を優先したためです。第3四半期以降は、延滞債権残高率に影響する債権の回収を強化しており、減少傾向になると試算しております。

以上

【お問い合わせ先】

プレミアグループ株式会社

グループ経営戦略本部 | R 部

お問合せフォーム：<https://ir.premium-group.co.jp/ja/privacy.html>